

第3回 協同組合の地域共生フォーラム

～ともに生きる地域づくりと協同組合の役割～
---くらしまるごとケアを求めて---

協同組合らしい地域ケア、地域共生を考えるフォーラムは3回目を迎えます。コロナ禍においても協同組合はその特性を発揮し、地域の人々の命、くらし、健康を守り、支えています。今回はオンラインを活かし、医療・介護・地域の取り組みを現場の皆様とともに共有し、ともに生きる地域づくりと協同組合の役割を探ります。

日時 2021年10月2日(土)13時～16時30分 ※Zoomでのオンライン開催

13:00	開会・挨拶
13:10	基調講演 「ともに生きる地域づくりと協同組合の役割」 齊藤弥生・大阪大学大学院教授
13:30	現場報告1(コロナ禍における医療・介護現場での取り組み) 報告①「コロナ禍における地域協同組合活動の組織づくり」(広島中央保健生協) 報告②「中山間地域における医療と介護の拠点づくり」(JA 長野厚生連 富士見高原医療福祉センター) 報告③「生協の複合型福祉施設における共生ケアの取り組み」(パルシステム東京)
14:40	現場報告2(コロナ禍で地域を支える取り組み) 報告①「余市町『まちづくり講座』から『みんなのおうち』へ」(ワーカーズコープ「かぜてくらぶ」) 報告②「東村山市における地域連携」(ワーカーズ・コレクティブ、生活クラブ東京など) 報告③「『やなマルシェ』による地域活性化の取り組み」(JA 愛知東 女性部)
15:50	グループ交流
16:25	まとめと締めくくり
16:30	閉会

主催：(一社)日本協同組合連携機構 (「第3回協同組合の地域共生フォーラム」実行委員会)
<実行委員会構成団体>
日本生活協同組合連合会、日本医療福祉生活協同組合連合会、日本労働者協同組合連合会、ワーカーズ・コレクティブネットワークジャパン、全国農業協同組合中央会、全国厚生農業協同組合連合会、日本文化厚生農業協同組合連合会

後援：内閣府地方創生推進室、総務省、厚生労働省、東京都

(申請中) (社)全国社会福祉協議会、(公)日本医師会、日本赤十字社、(社)恩賜財団済生会、(公)全国自治体病院協議会、(公)国民健康保険診療施設協議会、(一社)日本慢性期医療協会、(一社)地域包括ケア病棟協会、(一社)日本公的病院精神科協会、(特非)日本NPOセンター、(一社)SDGs 市民社会ネットワーク、全国漁業協同組合連合会、全国森林組合連合会、全国労働者共済生活協同組合連合会、(一社)全国労働金庫協会、全国農業協同組合連合会、全国共済農業協同組合連合会、農林中央金庫、(一社)家の光協会、(株)日本農業新聞、(株)農協観光、(一財)全国農林漁業団体共済会、全国大学生生活協同組合連合会、日本コープ共済生活協同組合連合会、(一社)全国信用金庫協会、(一社)全国信用組合中央協会、全国中小企業団体中央会、(一社)日本共済協会、生活クラブ事業連合生活協同組合連合会、労働者福祉中央協議会、日本協同組合学会

参加方法：Zoomによるオンライン

お申込み：<https://passmarket.yahoo.co.jp/event/show/detail/01m9w8cgnts11.html>



【参考1】～基調講演者・コメンテーターのプロフィール～

大阪大学大学院 人間科学研究科教授 ^{さいとう やよい} 齊藤 弥生 氏



学習院大学法学部卒業。スウェーデン国立ルンド大学修士(行政学)、大阪大学博士(人間科学)。

専門は福祉社会論。

著書に『スウェーデンにみる高齢者介護の供給と編成』(大阪大学出版会 2014 年)、共編著に『体験ルポ日本の高齢者福祉』(岩波新書 1994 年)等がある。現在の関心は協同組合による介護と医療。

【参考2】～現場報告1の概要～

1. コロナ禍における地域協同組合活動の組織づくり

(報告) 広島中央保健生活協同組合

(概要) 2020 年秋、組合員によるいっせい訪問行動では地域の方々1000 人と対話、生協強化月間で仲間ふやしや困りごとのよろず相談電話、健康づくり・フレイル予防などに取り組んだ。「冬のあったか交流会」では各地の活動に学び、コロナ禍でも「委縮」せず地域組合員活動と組織をつくっている状況について報告する。

2. 中山間地域における医療と介護の拠点づくり

(報告) JA 長野厚生連・富士見高原医療福祉センター

(概要) 小説「風立ちぬ」の堀辰雄が療養した結核サナトリウムとして知られ、現在は中山間地において急性期医療と介護の複合的な運営を行う。医療圏が広域に及ぶため、5つの事業部(富士見事業部、原事業部、諏訪事業部、伊那事業部、両小野事業部)を持ち、それぞれ診療所、老健施設、特養、地域密着型特養、訪問看護ステーションを運営している。協同組合の公的医療機関として患者の命と健康を守ると同時に、介護事業を複合的に展開することで、地域住民の生活とくらしを支える役割も担っている。

3. 生協の複合型福祉施設における共生ケアの取り組み

(報告) 生活協同組合パルシステム東京

(概要) パルシステム東京は、デイサービスやグループホームが保育園と一体となった「複合型福祉施設」において、子どもと高齢者が交流する「共生ケア」を実践している。いずれの福祉施設でも子どもや高齢者一人ひとりを大切にしたいケアに取り組んでおり、今回は地域や産地などとの交流の中で進める取り組みも含めて報告する。

【参考3】～現場報告2の概要～

1. 北海道余市町「まちづくり講座」から「みんなのおうち」へ

(報告) ワーカーズコープ「かぜてくらぶ」

(概要) 昨年12月4日労働者協同組合法が成立。協同労働を市民に届け、地域づくりを呼びかけようと、北海道余市町で、今年2月から週一回、「まちづくり講座」を開催。毎回10名以上が参加し、熱心な意見交流を行う中、3月末「かぜてくらぶ」が誕生。「協同労働」が市民に届くと、どういう力が湧いてくるのか地域づくりの取り組みについて報告する。

2. 東京都東村山市における地域連携

(報告) ワーカーズ・コレクティブ、生活クラブ東京など

(概要) 東村山市において、生活クラブ生協や多様なワーカーズ・コレクティブ、NPO等が連携し、独居高齢者や子育て中の女性の居場所事業、障がい者とともに働くしげんカフェ、訪問型介護福祉事業や住宅課題等に重層的に取り組み、地域づくりを行っている活動について報告する。

3. 愛知県新城市「やなマルシェ」による地域活性化の取り組み

(報告) 愛知東農業協同組合 女性部

(概要) A コープ八名店の閉店に際し、地域の交流の場を存続させたいと考えたJA女性部有志が、旧店舗を活用して朝市、フリーマーケット、喫茶、弁当製造販売などを行うとともに、女性部を越えた団体「やなまるっ人」を立ち上げ、幅広い地域住民とともに、イベント開催、農業体験、移動販売など地域活性化に取り組んでいる取り組みについて報告する。



<現場報告では、小説「風立ちぬ」の堀辰雄が療養したことで知られ、現在は中山間地で急性期医療と介護の複合的な運営を行うJA長野厚生連・富士見高原医療福祉センターが登場。写真は同センターウェブサイトより>